

今、福島について 知らなければならないこと

ふたば未来学園 2年 遠藤 瞭

1

自己紹介

- 双葉郡大熊町出身
- 小学校、中学校、高校と双葉郡の学校に通う
- 現在、ふたば未来学園高校 2年



2

ふるさと創造学

- 双葉郡の小学校～中学校で行われている
- 故郷の復興について考える授業
- 最後は自論を交えて発表



3

ふるさと創造学②

(私の場合)

- ・小6 「放射性物質のメリット、デメリット」
- ・中3 「より良い放射性廃棄物の最終処分方法」

「自分はそのことを知らない。自分の知らない所で町の未来が決まっていく」

4

リスク認知のあり方

- 原発事故、廃炉、放射線・・・
普通に生活していく上では知らなくても済むこと。
でも本当にそれで良いのか。
- ・ リスクは認知しているかしないかで大きく変わる

サイエンスアゴラ

- 2016年のテーマ「つくろう科学とともにある社会」
- 科学と社会の距離について議論した

「科学と社会の距離はどちらか片方の
アプローチだけでは埋まらない」



人間にとって科学とは何か

- トランスサイエンス
- 社会的合理性
- 相対的解

「科学者が非専門家の恐れや不安に
答えていくこと」

「生活者が自分の意見として
判断するリテラシーをもつこと」

人間にとって
科学とは何か

新潮選書
村上陽一郎



7

『人間にとって科学とは何か』より

トランスサイエンスについて科学だけで結論が出せない理由の一つに、価値観の違いがある。なので科学的合理性による「絶対的解」これを選べば正解、という答えは存在しない。

そこでキーになるのが、専門家の意見も一つの意見として受け止めあくまでも他の人と同等の立場で、公共の場で議論して最適解を見出そうという「社会的合理性」という考え方である。それにより目指すものは、「相対的解（状況的解）」その段階で人知を尽くして得られた結論である。

そのためには、「科学者が非専門家の恐れや不安に答えていくこと」と「生活者が情報を吟味し、自分の意見として判断するリテラシーをもつこと」の双方が大事である。

遠藤要約

8

最後に

- この場で議論してみたいこと・・・向き合い方
- 本日の楽会が有意義なものになることを願います